

令和4年度 第1回 東京都医療的ケア児支援地域協議会
議 事 要 旨

1 日 時 令和4年7月5日（火曜日） 午後6時30分から午後8時30分まで

2 会 場 オンライン開催

3 出席者 川上委員、富田委員（副会長）、前田委員（会長）、吉澤委員、岩崎委員、
小川委員、檀委員、等々力委員、早野委員、折井委員、田村委員、齋藤委員、
齋藤委員、高山委員、深井委員
（欠席）伊藤委員、瀬委員

4 議事概要

(1) 東京都医療的ケア児（者）実態調査について

○全体の調査結果

- ・今回の調査結果は、普段感じていること、利用者の方から相談として受けているものと全体の回答が一致している。

○事業所での医療的ケア児の受入れ・課題

- ・医療的ケアに対応できる施設が少ないことは印象深い。どのように支援していくか今後考えていくべき、重要なことである。
- ・医療的ケア児を受入対応している事業所が3割未満ということで思ったよりも少ない。やはり不足している。
- ・職員の確保が最も困難で経営が難しい。事業所が少ない要因として、利用キャンセルの問題がある。頻度が多く、苦慮している。
- ・送迎で相当負担がかかっているが、それに対する手当が少ない。

○レスパイト

- ・どの程度受給者証で支給量が決定されているかも大事なポイントで、区市町村ごとにばらつきがある可能性が高い。また検討、調査できると良い。
- ・新型コロナの影響で、預ける難しさ、預け先の選択肢の少なさの問題は学齢期でもよく聞く。

○情報提供

- ・得たい情報として、「利用できる福祉サービス情報」が高く、行政として、情報の共有、周知が求められており、力を入れていく必要があると感じた。

○看護師確保

- ・教育委員会も拡充策や賃金など看護師が働きやすい様々な取組を行っているが、依然として看護師は見つからない。

○研修

- ・研修が必要だという結果は、印象的であり、研修を提供することで頑張ってもらいたいという気持ちがあるかと感じた。都としての、あるいは様々な地域としての研修の提供をやっていく意味は非常にある。研修を行うことは、割とハードルが低く、みんなの力で頑張ればできる内容かと思う。

○医療的ケア児支援センターとの関係

- ・支援センターがうまく機能して、相談支援専門員の方たちを具体的にどう支援していくか、事業所に対してもどう支援していくかというのが、今後の課題。

○調査結果の施策への活用

- ・(現場で) 困難として目に見えていたものが、数値として上がってきたことは施策を展開する上で大きな力となる。
- ・アンケートの結果、皆様の声をどのように施策を行っているか明確に示せるように、都として必ず何かしら成果を出してほしい。また、優先順位を考えていきながら施策を検討してほしい、
- ・都が調査を実施したこと自体に意味がある、多くの方がこれにより実態を知るところになる。このような調査結果を積極的に発信していくということ自体が一つの意味のある活動である。

(2) 東京都医療的ケア児支援センターについて

○支援センターの役割・機能

- ・都民の皆様の期待・ニーズに応えるためには、自治体の保健師、相談支援専門員、医療的ケア児コーディネーターとの連携が重要。さらに、支援する仕組みが必要。支援センターにはサポート的な役割が求められる。利用者身近な支援者をどうサポートしていくかが大事。
- ・利用者の相談内容は細かく、訪問看護では対応できないことも多く、全般的に受け止めてもらえる支援センターの設置は、利用者にとってありがたい。
- ・都全体の区市町村の支援を充実させるためには、定期的な情報交換の場の設置、情報の速やかな展開が必要。
- ・区部は距離が近いので、比較的、顔の見える連携を築くことができる。城北、城南などブロックごとにネットワークを形成していくことも一つのやり方である。
- ・学校における看護師への支援も一つの重要なテーマ。
- ・学校と学校以外を切り分けずに考えていく必要もある。

○支援センターの周知

- ・様々な支援センターがあるため、利用者は、どこに何を相談したら良いか分からないのではないかと。利用方法、利用内容など分かりやすく示してほしい。

(東京都立大塚病院、東京都立小児総合医療センターを医療的ケア児支援センターとして指定することについて、異論なし。)

(3) その他

- ・医療的ケア児支援ポータルサイトについては、医療的ケア児の御家族の方々と支援を提供する側とで、見え方が異なるため、可能な限り多くの方の意見が反映されるよう、検討してほしい。

以上